

2024年6月14日(金)
令和6年度「貿易プラットフォーム活用による
貿易手続デジタル化推進事業費補助金」
成果普及セミナー

港湾物流全体の最適化を実現する 「Cyber Port」の概要と“繋ぐ”役割

2024年6月14日

国土交通省港湾局

NEW WAVE, NEW STANDARD.

港湾物流業界の、デジタル化の遅れを取り戻す。

港湾物流業務の効率化と
コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を図り、
港湾物流全体の生産性向上を目指す。

[Cyber Portについて →](#)

[お問い合わせ →](#)

Scroll Down

NEW WAVE, NEW STANDARD
港湾物流業界の、デジタル化の遅れを取り戻す。

概要

対象手続	民間事業者間のコンテナ物流手続
対象事業者	荷主、外航船社、内航船社、NVOCC／フォワーダー、海貨業者、通関業者、ターミナルオペレーター、陸運業者、倉庫業者、船舶代理店、届出荷送人、登録確定事業者
主な機能	<ul style="list-style-type: none">✓ データプラットフォーム機能(帳票作成/情報連携/手続依頼等)✓ 業務支援機能(帳票テンプレート/タイムライン(履歴確認)/既読確認/タスク管理/帳票データ一括DL/メッセージ送受信/ファイル添付等)✓ NACCS連携機能(CP上でNACCS業務(82業務コード対応)を実行) 等
導入効果	業務効率化、手続可視化 等 (2021年度の実証事業で最大60%の時間削減効果を確認)
利用方法	<ul style="list-style-type: none">➢ ブラウザ(GUI)利用➢ 自社システム等とのAPI連携
稼働	2021年4月運用開始
利用料金	2026年3月まで:無料 2026年4月~:6,600円/(月・社)

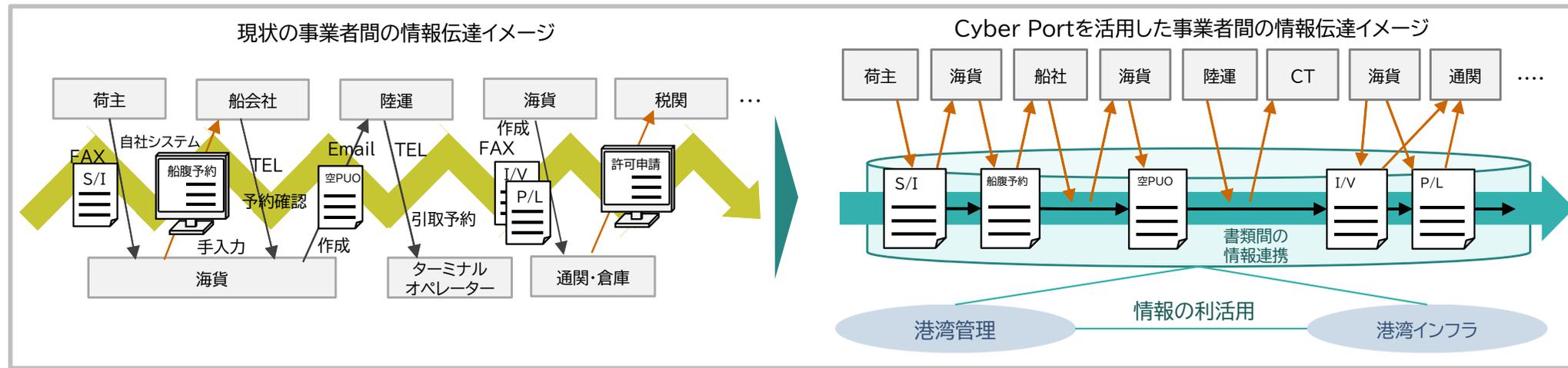
Cyber Port の目指す姿

港湾物流に関わる全ての関係者・システムを繋ぐことで、全体最適化



Cyber Port の効果

民間事業者間のコンテナ物流手続を電子化することで、「業務効率化」と「手続可視化」を行い、生産性向上を実現するデータプラットフォーム。



【現状の情報伝達の課題】

- 紙情報の伝達による再入力・照合作業の発生
- トレーサビリティの不完全性に伴う問い合わせの発生
⇒ 潜在コスト増加の一因に
- 書類記載内容の不備等の発生
⇒ 渋滞発生の一因に

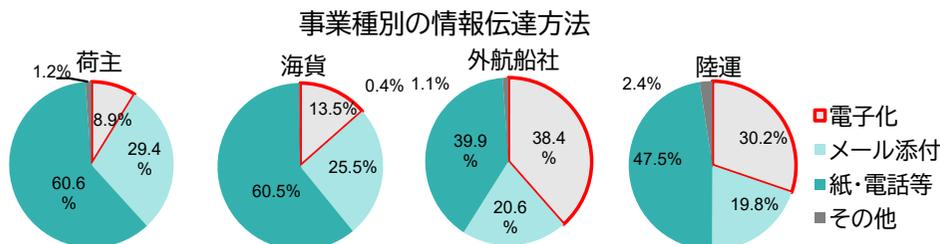
【データ連携による短期的効果】

- データ連携による再入力・照合作業の削減
- トレーサビリティ確保による状況確認の円滑化

【情報利活用による長期的効果】

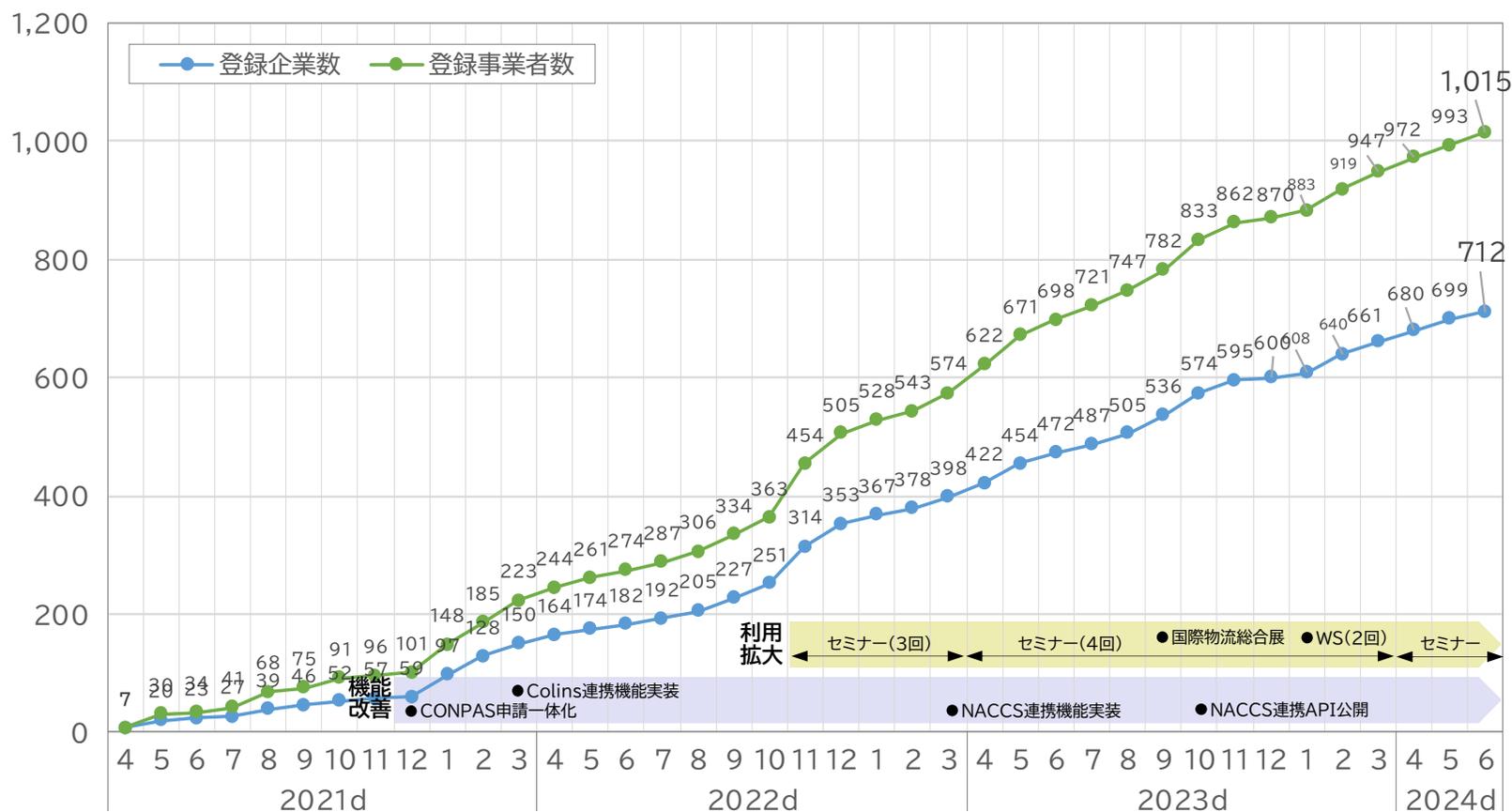
- データ分析に基づく戦略的な港湾政策立案(国等)(港湾施設に関する計画、整備、維持管理に至る効率的なアセットマネジメント等)
- 蓄積される情報とAI等の活用等により新たなサービスの創出(民間事業者等)

▶▶ コンテナ物流全体の生産性の向上、国際競争力強化



2021年4月の運用開始以降、順調に利用登録が進み、
2024年6月時点で利用登録社数は712社、事業種別登録数は1,015者。

利用登録社数・事業種別登録数

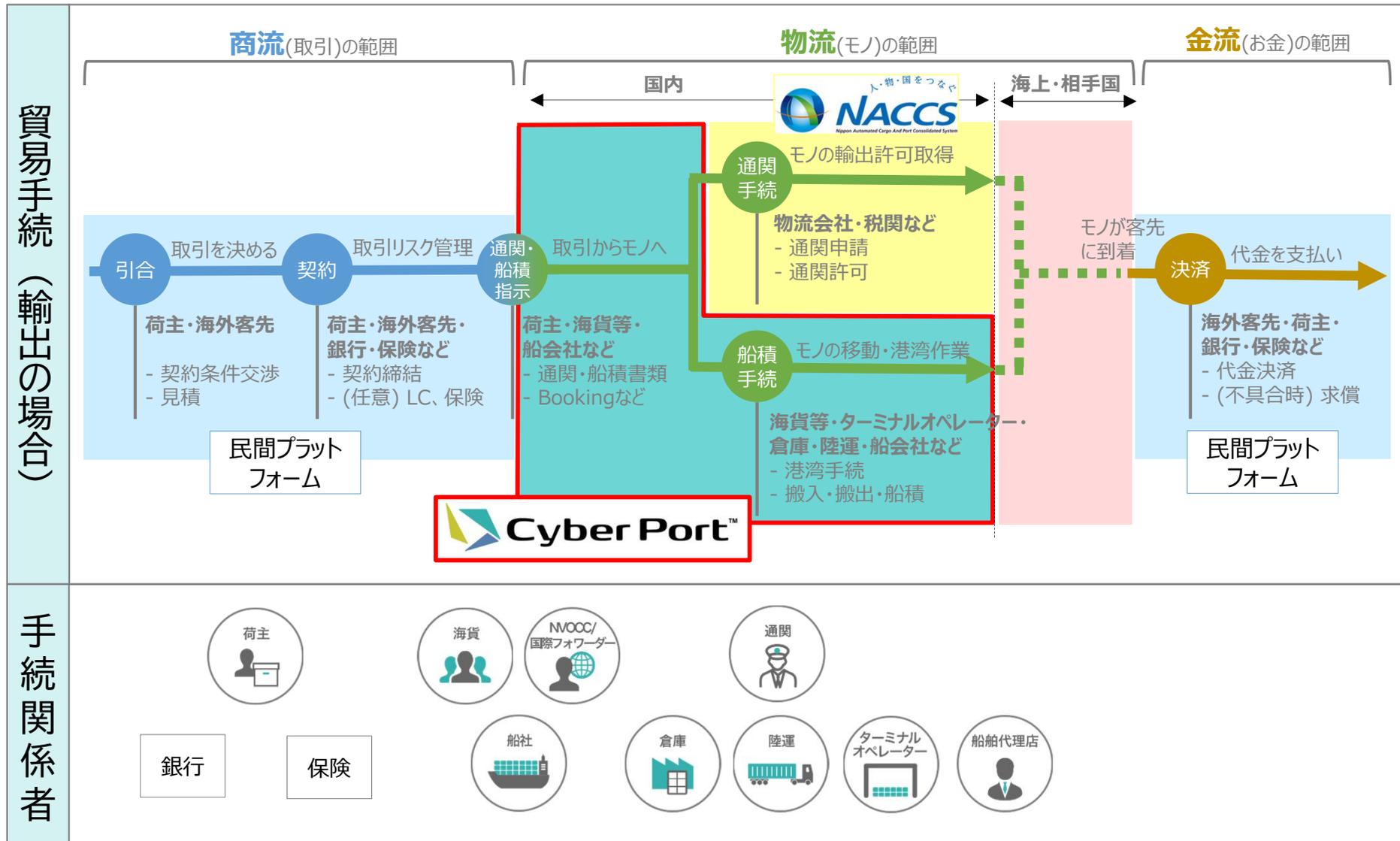


事業種別申請数

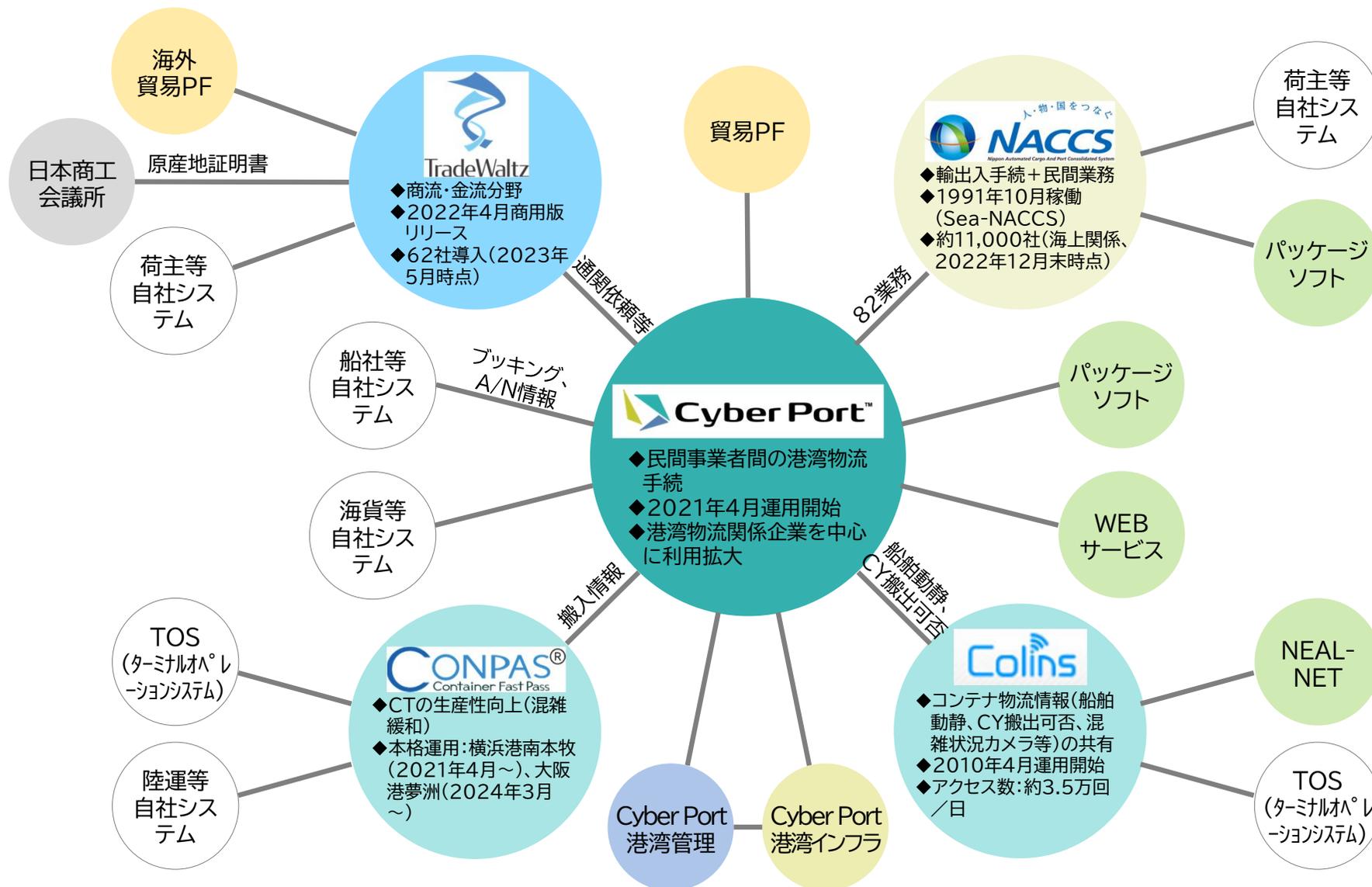
事業種別	登録数
荷主	66
外航船社・内航船社	8
NVOCC/フォワーダー	110
海貨業者	80
通関業者	299
ターミナルオペレータ	27
陸運業者	320
倉庫業者	54
船舶代理店	15
その他	36
計	1,015

Cyber Port の対象範囲

Cyber Port は、貿易手続全体のうち港湾物流手続を対象。
 周辺の手続を担うプラットフォームとも連携・整合をとりつつ、全体としてデジタル化を推進。



貿易・港湾関連の様々なPF、Webサービス、パッケージソフト、自社システムとの連携を推進



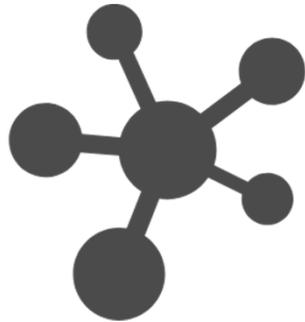
<Cyber Port の役割(国運営PF)>

- 民間PF・自社システム等がある中で、Cyber Port の立ち位置は「データ連携の基盤⇨情報インフラ」。
- 中小企業も含め、負担感の少ない低廉な価格で、各社共通に必要な機能を備え、多様なシステムを“繋ぐ”PF。
- 各システムが得意とする部分を生かし、Cyber Port はシステム間での必要なデータ連携を実現するための基盤として機能。

<連携事例>

社内外との連携

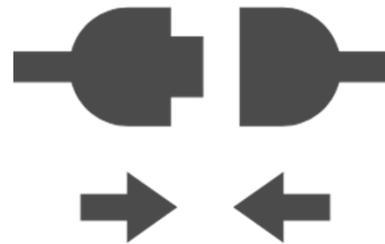
社内外への手続・作業依頼／受付、情報連携等を実施



- 『TradeWaltz』by TradeWaltz様(輸出入通関依頼等)
- 『Power-T』by三井倉庫様(空コンピックアップオーダー)
- 各TOS(宇徳様、鈴江様、YPM様)
※ターミナル問合せ機能
- 自社システム 等

NACCS業務

Cyber Port を経由してNACCS業務を実施



- (複数のパッケージソフト、Webサービスで連携機能を構築中)
- 自社システム 等

各Webサービス連携

各サービスの提供に必要な情報をCPから取得



- 『MonCargo』by MonCargo様(ブッキング番号、B/L番号)
- 『MARINE My Page』by損害保険ジャパン様(I/V) 等

Cyber Port の連携の仕組み : 「WebAPI」

<API接続のメリット>

EDI等の従来のシステム接続に比べ、双方のシステム調整が不要であり、APIに合わせた個社システムの改修のみで利用することが可能。
Cyber Port はインターネット接続によるWebAPIのため、インターネットに接続可能なシステムであればWebAPIを利用可能。



Cyber Port が提供する「WebAPI」

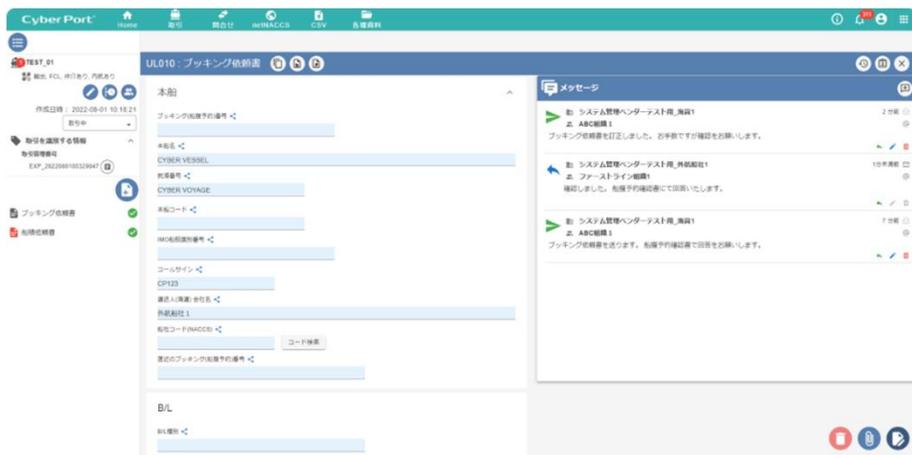
- ✓ マスタ (会社、組織、利用者、事業種別、帳票、等)
- ✓ 取引 (取引検索・取得、取引作成、等)
- ✓ Cyber Port 帳票 (S/I, I/V, P/L, 船腹予約確認書、等) 【39帳票】
- ✓ NACCS業務 (ICG, ECR, BIC, EDA/EDC, ACL, IDA/IDC, VAN/VAE、等) 【82業務コード】
- ✓ Colins (本船、輸出コンテナ、輸入コンテナ)
- ✓ その他 (ルートドキュメント共通、未読通知、タスク、等)

<Cyber Port のWebAPIの公開ページ>

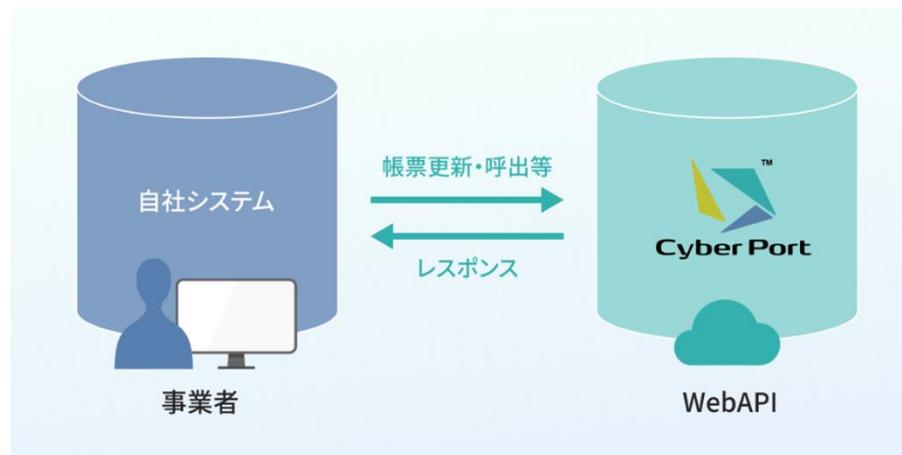
「Cyber Port ポータルサイト」→「資料ダウンロード」
→技術者向け資料「Swagger」

利用方法と導入コスト

<ブラウザ利用>



<API連携>



	イニシャルコスト	ランニングコスト
ブラウザ利用	不要	2026年3月まで: 無料
API連携	システム改修費用	2026年4月から: 月額6,600円/社



「貿易PF活用補助金」の活用	自社システム とCyber Portとの連携 ➡ 【類型1】
	PF・Webサービス・パッケージソフト とCyber Portとの連携 ➡ 【類型3】

「Cyber Port との連携」や「Cyber Port の導入」を検討されている方は、ぜひポータルサイトから、お気軽にお問い合わせください。



Cyber Port

各事業者様・PF様・ベンダー様が実現したいことに合わせたシステム連携やAPI活用事例のご紹介等の導入支援に加え、テスト方針や方法の検討、テストデータ作成等のテスト支援も行っています。

また、将来的な自社システムとのAPI連携を視野に、まずは導入効果を確認したい方向けにも、ブラウザ利用を前提とした、業務ヒアリング・運用設計・デモ・トライアル・本格運用とパッケージで支援を行っています。

NEW WAVE, NEW STANDARD.

港湾物流業界の、デジタル化の遅れを取り戻す。

港湾物流業務の効率化と
コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を図り、
港湾物流全体の生産性向上を目指す。

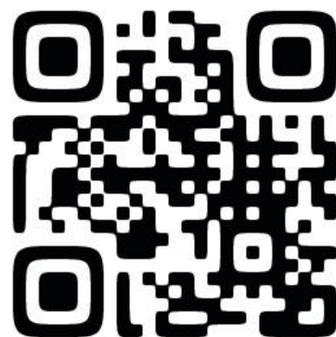
[Cyber Portについて →](#)

[お問い合わせ →](#)

Scroll Down



Cyber Port™



▲上の二次元バーコードより
ポータルサイトへアクセスできます